

(9) 経営学教育における学士力の考察

経営学教育FD/IT活用研究委員会は、21年7月、8月、9月、10月の4回開催した。経営学分野では、企業の社会的責任の認識を必要不可欠な基本として掲げた。この認識に立って、「企業組織の仕組みの理解」、「経営理論に基づく組織行動を実証的に捉える力」、「現実の問題解決を提案できる姿勢」を身に付けさせることで、企業をはじめとする社会の求める人材像に応えられる「力」を目指した。その上でサイバーFD研究員580人に意見を求め、58人(10%)の意見を反映させ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。

【到達度】

- ① 組織を取り巻くステークホルダー(利害関係者)にはどのような要素と相互作用があるかを理解している。
- ② 経営倫理やCSRなどについて、具体的な事例を理解している。

【到達目標2】

企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。

【到達度】

- ① 企業・組織の構造と活動の仕組みを理解している。
- ② 経営資源の基礎的知識を理解している。

【到達目標3】

経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。

【到達度】

- ① 現実の企業活動を例に取り、各種経営理論を用いた説明ができる。
- ② 経営データ分析の基礎的な手法を身に付けている。
- ③ 現実に存在する組織の行動を経営理論に基づいて、実証的に分析できる。

【到達目標4】

企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。

【到達度】

- ① 企業・組織の経営目標に対して、個人が関わるべき義務と責任を理解することができる。
- ② 企業・組織の経営に関する課題を発見・分析・評価するために、利用可能な経営知識や技術を用いることができる。

(9) 経営学教育における情報教育

経営学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめの後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討では、組織における情報システムの役割、情報倫理の理解、Webサイト検索とソフトを用いたプレゼンテーション、演習などでのビジネスゲームによるシミュレーションの体験、経営情報システムの成功・失敗事例の理解などをとりあげた。

【到達目標1】

情報通信技術を活用して、経営に関わる情報を適切に収集・整理し、表現・発信できる。

【到達度】

- ① 経営情報の社会性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。
- ② 情報検索やソフトウェアの活用など基本的な情報処理能力を身につけている。

【教育内容・教育方法】

- ①は、講義と事例研究によって、組織における情報システムの役割、情報セキュリティ、情報倫理、情報関連法規などについて理解させる。
- ②は、Web検索や資料検索等によって得たデータをもとに、基本的なソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)を用いてレポートやプレゼンテーションをさせる。

【到達度確認の測定手段】

- ①は、小テスト、レポートなどにより確認する。
- ②は、プレゼンテーション、レポートなどにより確認する。

【到達目標2】

企業をはじめとする組織の行動を分析し、意思決定を行うための情報通信技術を理解している。

【到達度】

- ① 意思決定のモデル化、シミュレーションの方法を理解している。
- ② 経営情報システムによる複数の成功、失敗事例を理解している。

【教育内容・教育方法】

- ①は、講義、演習、ビジネスゲームなどにより、要件整理・要件分析・モデル記述のフローを示し、理解させる。さらに、模擬データによる簡単なシミュレーションを体験させる。
- ②は、ケーススタディ方式で事例を紹介し、因果関係を討議させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①は、小テスト、プレゼンテーションなどにより確認する。
- ②は、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。